

ICTを
活用した

不登校の児童生徒への 「学びを止めない」「心を近づける」 学習支援 実践事例

- 本道の不登校児童生徒数は、1,000人当たり小学校13.9人、中学校60.4人、高校9.6人であり、増加傾向、長期化傾向がみられます(令和3年度調査結果)。
- 不登校となった場合でも、児童生徒の教育機会を確保し、学習意欲の維持・向上等に向け、学校が一体となった支援が必要です。
- 学校でのICT環境の整備が進む中、本資料を参考に、ICTを活用した学習支援を始めましょう。

※ これまでに作成した教職員研修資料も参考にしてください。

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/shiryu.htm>



本資料の活用にあたって

支援の対象となる児童生徒を「不登校傾向」「不登校になり始めた」「長期不登校」に分類

- 不登校傾向にある児童生徒への支援
- 不登校になり始めた児童生徒への支援
- 長期間不登校の児童生徒への支援

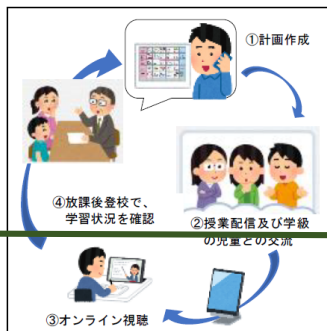
Web会議システムを活用した放課後登校児童への学習支援

○ 取組の進め方

- ① 学級担任は保護者と相談して学習支援の方向性について共通理解を図るとともに、授業配信の計画を作成
- ② 学級担任は教室の前方及び後方にカメラ設置
- ③ 児童は自宅で授業を視聴し、本人の意向を踏まえて話し合いに参加
- ④ 学級担任は児童が週2回程度、放課後に登校した際に、児童の学習状況を確認。また、保護者と家庭における学習状況について情報共有

○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・ 授業配信の計画を作成する際には、**児童の興味の高い教科を中心に作成**
- ・ 1人1台端末を活用した**家庭学習**について、**児童の興味・関心に応じて提示**
- ・ 学級の児童と交流する機会を確保するため、本人の意向を踏まえて**Web会議システムを休み時間や放課後にも接続**



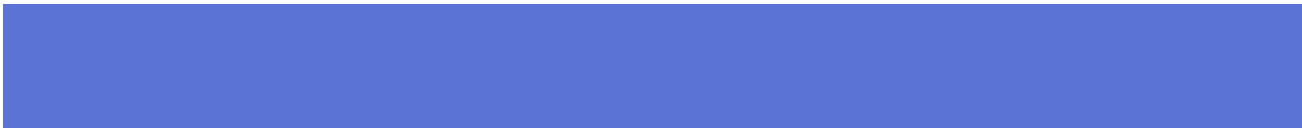
支援の流れを時系列で整理

支援を効果的にするために留意したポイントを記載

- 不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得る。
- 不登校そのものは**問題行動ではない**ことを児童生徒・保護者に知らせる。
- 個々の不登校児童生徒の状況に応じた**多様な支援が必要**となる。
- 支援に際しては、学校復帰という結果のみを目標とするのではなく、児童生徒の**社会的自立を目指す**必要がある。

不登校対応の基本方針です。

全教職員で理解を深めましょう。



: HEîikx'Q£÷ #Vĩ ÅA 7-p†M0 -
 A -p~*â \¥›V¥xµ-ð± -
 ¾,ÉQ£÷ ‡XM0m¥q4'-‡Xüe ®
 : HEîikx'Q£÷ xµ&& 5¼ £ÿ "Ç ®
 : HEîikx'Q£÷ xµ&& 5¼ £ÿ "É -
 --Ž -© Ó)£÷*GJNp2QÃ@) CNqQz\$ JO

ÅM0

: HEîikx'Q£÷ xµ&& "Ç °
 : HEîikx'Q£÷ xµ&& "É °
 ‡XM0m¥q4'ôÚ p†M0 ±
 ŸVŸ€4z ka4•Q £÷ p†Ô•C\$è-ôj ±



: HEîikx'Q £÷ xµ&& "É 2
 : HEîikx'Q£÷ xµ&& "É 2
 *RRJOH QHHW Å:2pû*ËJ ' T ÇF*ì J
 p† --óý 3

Gf'ôÚ \¥›V¥xµC‡Xüe 3
 ÇFU--\¥›V¥&& '
 ‡Xa>X{g4...k' : HEîikx'Q£÷ M0 '
 : HEîikx'Q£÷ °.Ó)p†M0 µ
 : HEîikx'Q £÷ ÅÇF7-M0 µ
 : HEîikx'-"um4j šQ£÷ ‡Xüe-ð±
 ÅQ^Ç* L'¶ Ñ Å-ÇF7-M0
 ¶¼ Å*GJ : HEîikx'-'£÷
 q^žuz Q£÷ ‡Xüe pÅ.1%-&&
 ka4•]X¥m>4*GJ : HEîikx'Q £÷]X¥mœ¥b
 \$Ž½g* J¾,É%Q£÷ p†£ÿQ
 P ^±² ž ' J '*# %



ÅJ1* JÇF ³ ©-p†M0
 : HEîikx'-' £÷ *GJ ÇF7- Å^Ç ã*1 M0
 ÅÇF7-LöÓ)ìâQÓ\$ J‡é]
 p†M0v4•CxµM0ikx'Q£÷ ÇF7-M0
 Öp†M0ikx'Q£÷ p†M0
 : HEîikx'Q £÷ N-a>k-ëÒxµ